

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 81 号

2017(平成29)年12月16日(土)

『教有りて類無し』論語・衛霊公15-39

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

今年も残すところあとわずかになりました。塾生・保護者の皆さんにとって、この一年はどんな年だったのでしょうか。

月に一度、幅広い年齢層が集う「寺子屋・こども論語塾」では、こども達の高く澄んだ声に、大人の低く重みのある声が重なり、厚みのある素読が響きます。

その論語塾が試行錯誤を繰り返しながらも、多くの方々の深い理解と支えによって丸7年が経ちました。改めて心より感謝申し上げます。

ところで冒頭の『教有りて類無し』という言葉は、『論語』約五百章ある中で一番短い章句です。「人は教育によって違いが生じるが、生まれつきの差はない」つまり、生まれた時は皆平等で、どのような教育を受けたかによって差が生じる。と孔子は述べているのです。以前、学んだ章句です。

陽貨第17- で学んだ、「性、相近きなり。習、相遠きなり」と、ほぼ同じ意味と考えてよいでしょう。

人間は正しい教育を受けて、世のため人のために役立つ人になるのだという強い志を持って、一生懸命努力するならば、必ず立派な人間(君子)になれるのです。

教へ導く側(学校では先生・家庭では両親・会社では社長)にとって大事なことは、孔子がそうであったように、「人は変わる」という可能性を信じること。そのためには、学ぶ機会や環境を出来るだけ多く与えることが前提となることは言うまでもありません。

教育とは「子供達がどうしたら幸せに生きられるか」を教えることでないかと私は考えます。

アメリカの思想家・エマーソンは、「教育の秘訣は、生徒を尊敬することにある」と、述べていますが、生徒が我が子・社員などに置き換えてみてほしいと思います。

重く受け止めなければならない言葉になるのではないのでしょうか。

間もなく冬休みに入りますが、この休みは希薄になりつつある親子の対話が一層深まることを期待しています。どうぞよいお年をお迎え下さい。

【お知らせ】

この一年を通して、孔子の教えである「仁の心」を実践し、可能な限り出席し続ける努力をした6名の塾生に**努力賞**を授与します。・街道太陽君、・藤鳥果歩さん、・渡邊春太郎君、・光田雪花さん、・山本 彬君、・永井み

すずさん。また、自らの意志で論語章句の毛筆書写を申し出、実践している藤鳥梨乃さん(中3)に**感謝状**を贈呈します。更に今年度は**塾長賞**を新設しました。一年間を通して、他の塾生の模範となり、積極的な姿勢がみられる人に与えるものです。受賞者は光田虎ノ介君に決定しました。

【本日の流れ】

本日は開塾7周年を記念し、大波僧侶がベースを弾いてくれます。また、5名の塾生による先唱役並びに暗記の素読を発表してもらいます。流れは以下の通りです。(坐禅・論語は時間を短縮します)

坐禅(20分)	抱擁・たよりのプリント説明及び論語の講義(40分)
先唱役・暗記素読発表(15分)	表彰(5分) 大波僧侶のベース演奏(10分)